**看取りについて本人・御家族に考えていてほしいこと**

**本人や家族に看取り時に考えてほしいこととして説明する際の参考資料として御利用ください。**

**利用に当たっては、必ず主治医の先生に確認してください。**

１　呼吸が弱まった、あるいは止まったとき

　(1) 何もしないことを希望します。

　(2) 何もしないことを希望します。ただし、家族や最後を看取ってくれる者が到着するまでは、

救急救命処置を実施してください。

(3) 酸素マスク、あるいは酸素チューブのみ希望します。

(4) アンビューバッグによる補助呼吸を希望します。

(5) 気管内挿管を含む救急救命処置を希望します。

２　血圧が下がった時、あるいは脈が止まったとき

(1) 何もしないことを希望します。

(2) 何もしないことを希望します。ただし、家族や最後を看取ってくれる者が到着するまでは、

救急救命処置を実施してください。

(3) 末梢点滴のみ希望します

(4) 昇圧剤、抗不整脈薬まで希望します。

(5) ＡＥＤ、電気ショック、心臓マッサージを含む救急救命処置を希望します。

※　上記１、２において、(1)～(4)を御希望された場合でも、想定されたもの以外の原因による心肺停止時（急に食べ物を喉に詰まらせてしまったために生じた突発的な心肺停止など）には、救急救命処置を実施する場合があります。

３　痛み・苦しみが改善しないとき

(1) 何もしないことを希望します。

(2) 非麻薬性の痛み止めや安定剤を増量してください。ただし、呼吸・血圧・意識レベルが悪化

する時は増量しなくても結構です。

(3) 麻薬性の痛み止めを増量してください。ただし、便秘・血圧・意識レベルが悪化する時は増

量しなくても結構です。

(4) 麻薬性の痛み止めを増量してください。意識がなくなっても、痛み・苦しみを取ることを最

優先します。

４　経口摂取ができなくなったとき

　(1) 何もしないことを希望します。

　(2) 脱水症状などで苦痛を伴う場合のみ、点滴による水分補給を希望します。

　(3) 胃ろうなどの経菅栄養による栄養補給を希望します。